

10課

3月5日

垂れ幕を通して 道を開かれるイエス



安息日午後 2月26日

暗唱聖句

ところが、キリストは、ほんとうのものの模型に過ぎない、手で造った聖所にはいらなくて、上なる天にはいり、今やわたしたちのために神のみまえに出て下さったのである。(ヘブル人への手紙9:24、口語訳)

なぜならキリストは、まことのものの写しにすぎない、人間の手で造られた聖所ではなく、天そのものに入り、今やわたしたちのために神の御前に現れてくださったからです。(ヘブライ人への手紙9:24、新共同訳)

今週の聖句

ヘブライ9:24、出エジプト記19:3、4、ヘブライ12:18~21、レビ記16:1、2、ヘブライ10:19~22、コロサイ3:1

今週のテーマ

イエスが天に昇られた直後、オリーブ山から戻って来た弟子たちの心は、歓喜と勝利の思いで満たされました。彼らの主であり、友であるお方が天に昇り、全世界に及ぶ権限を手にしたのです。彼らは、神は彼らの祈りに喜んで応えてくださるという絶対的確信をもって、イエスの名によって神に近づくよう招かれているのでした(ヨハ14:13、14)。彼らは依然として地上の世界にいて、悪の勢力の攻撃にさらされていましたが、彼らの希望は揺るぎませんでした。彼らは、イエスが彼らのために場所を用意するために天に昇られたことを知っていました(同14:1~3)。彼らは、イエスが彼らの救いの指揮官であり、彼の血によって天の家郷への道を開いてくださることを知っていました。

イエスの昇天はヘブライ人への手紙の神学の中心をなすテーマです。それはイエスの統治の始まりと、私たちのための大祭司としての奉仕の始まりを意味します。更に重要なことは、最終的にイエスの昇天は、私たちが信仰によって大胆に神に近づくことができるようにする新しい契約の開始の瞬間でもあったということです。イエスとイエスの義の功績によって、確信をもって神に近づくことができるのは、今を生きる私たちの特権です。

問1 ヘブライ9:24を読んでください。この聖句によれば、イエスの昇天の目的は何でしたか。

神はイスラエルに、男子は年に三度「主なる神の御前に入る」ために、献げ物を持ってエルサレムに上るようお命じになりました。そのために過越祭（除酵祭・種入れぬパンの祭）、七週祭（ペンテコステ・五旬祭）、仮庵祭が定められました（出23:14~17、申16:16）。過越祭はイスラエルのエジプトからの解放を祝うものでした。五旬祭は大麦の収穫を祝うもので、新約時代にはシナイでの律法の賦与に関連する祭でした。仮庵祭は荒れ野の旅の間の神の守りを祝うものでした。

ヘブライ9:24は神の御前に入るためのイエスの昇天を記しています。彼は、「まことのもの」として御自身の血である「これらよりもまさったいけにえ」を携えて「神の御前に現れ」るために天の聖所に入りました（ヘブ9:23、24）。

イエスは驚くべき正確さをもって、この巡礼される三大祭を実現されました。彼は、過越しの小羊がいけにえとなる時である、過越祭の準備の日の午後3時（直訳では第9時）に死なれ（ヨハ19:14、マタ27:45~50）、3日目によみがえり、彼の犠牲が受け入れられた保証を受け取るために天に昇りましたが（ヨハ20:17、1コリ15:20）、それは祭司が収穫された大麦の初穂を御前に差し出す行為に象徴されました（レビ23:10~12）。そして復活から40日後に、神の右の座に着くために昇天され、そして五旬祭の日に〔聖霊降下によって〕新しい契約を開始されたのでした（使徒1、2章）。

古代イスラエルにおける巡礼の目的は「神の御顔を仰ぐこと」でした（詩編42:3〔口語記42:2〕）。それは神に正しさを認められ、神の好意を得る経験を意味しました（詩編17:15）。同様に、ヘブライ人にとって「神の御顔を求める」という表現は、神に助けを求めることを意味しました（代下7:14、詩編27:8、105:4）。これがヘブライ人への手紙において、イエスの昇天が意味することです。イエスは完全ないけにえをもって神のもとに昇りました。イエスは、神の御前に入っていく私たちの先駆者として、昇天されました（ヘブ6:19、20）。彼は、信じる者たちが「故郷を探し求め」る旅において「熱望」した、「更にまさった故郷」、神御自身が彼らのために準備された都を現実のものとしたのでした（同11:10、13~16）。

十字架上で成し遂げられた事実だけでなく、今、キリストが天でしておられる奉仕は、なぜ私たちに救いの確証を与えるのでしょうか。

問2 ヘブライ12:18~21を読んでください。シナイ山でのイスラエルの経験はどのようなものでしたか。

神がイスラエルをエジプトから召し出された目的は、彼らとの個人的で親密な関係を築くためでした。神はモーセに言われました。「あなたたちは見た。わたしがエジプト人にしたこと／また、あなたたちを鷲の翼に乗せて／わたしのもとに連れて来たことを」(出19:4)。

こうして、神はモーセを通して民に、神と会うために必要な準備をするよう教えられたのでした。民はまず身を清める必要がありました(出19:10~15)。準備せずに山に登る者は死んでしまうからです。民が2日間の準備を整えたならば、神は3日目に、「角笛が長く吹きならされるとき」、民は「山に登ることができる」(出19:13)と指示しました。神は彼らにも、モーセや民の代表者たちが山に登り、神の御前で「神を見て、食べ、また飲んだ」と同じ経験をさせたいと望まれたのでした(同24:9~11)。後に民は、彼らが神の栄光を見たことを知りましたが、それはまさに「神が人に語りかけられても、人が生き続けることもある」(申5:24)経験でした。しかし、いざという時、彼らの信仰は弱くなっていました。モーセは数年後に、民が「火を恐れて山に登らなかった」(同5:5)と記しています。民は彼らが山に登る代わりに、モーセに彼らの仲保者になってくれるよう頼みます(同5:25~27、出20:18~21と比較)。

神がシナイ山でその神聖を現わされたのは、民に神を「畏れること」または敬うことを学ばせるためであり(申4:10を詩編111:10、箴1:7、9:10、10:27と比較)、同時に、神は憐れみ深く恵みに富むお方でもあられることを学ばせるためでした(出34:4~8)。このように、神の御もとに来るようにとのイスラエルに対する招きにかかわらず、彼らは山に登ることを恐れ、モーセに仲保者になってくれるよう頼んだのでした。ヘブライ人への手紙におけるシナイでの出来事の描写は、モーセが民に彼らの不信仰と金の子牛の背信を思い起こさせ、それらの罪のために彼がどれほど神に会うことを恐れたことを述べています(申9:19)。神の招きに対して民の取った行動は神が計画されたものではなく、彼らの不信仰の結果でした。

なぜ私たちはイエスのお陰で聖なる神の近くに行くのを恐れなくて良いのでしょうか。しかし、そのための条件は何でしょうか。

幕には二つの役割がありました。ヘブライ人が用いる幕に当たる言葉（カテペタスマ）は、聖所の庭を囲む幕（出38：18）、天幕の入り口に掛ける幕（同36：37）、または聖所と至聖所を分けるための幕（同26：31～35）を意味します。これらの幕は、いずれも一部の人だけが通り抜けることができる入り口であり、境界でした。

問3 レビ記 16：1、2と同 10：1～3 を読んでください。これらの聖句からどのような警告を読み取ることができますか。

幕は、聖なる神の前で奉仕する祭司たちを、〔神の栄光から〕守るものでした。金の子牛の罪の後、神はモーセに、彼らが「かたくなな民である」（出33：3）ために、彼らを途中で滅ぼしてしまうことがないように、神は民に同行して約束の地に上ることはしないとされました。そこでモーセは臨在の幕屋を移動させ、宿営から遠く離れた所に一つの天幕を張りました（出33：7）。神は、モーセのとりなしの後、民に同行することに同意しました（同33：12～20）。しかし神は、民の間におられるとき、民を守るためにいくつかの方法をお定めになりました。

たとえば、イスラエルは宿営する際、その中央に幕屋を張るための四角い空き地を設けなければならないことが厳格に定められていました。加えて、その周囲には幕屋とその調度品を異邦人の侵略から守るためにレビ人が宿営しました（民1：51、3：10）。彼らはまた、イスラエルの民を守るための、ある種、人間の幕なのでした。「レビ人は掟の幕屋の周囲に宿営し、〔神の〕怒りがイスラエルの人々の共同体に臨まないように、掟の幕屋の警護の任に当たらねばならない」（民1：53）。

イエスもまた私たちの祭司として幕になってくださったのです。神はイエスの受肉によって人の間に神の幕屋を張り、それによって私たちが神の栄光を見ることができるようになりました（ヨハ1：14～18）。イエスは、聖なる神が不完全な人の間に住まわれることを可能にくださったのです。

宇宙を造られた創造主なる神が、エジプトから逃げ出した奴隷にすぎなかった神の民の間に住まわれることの意味を考えてみてください。この事実は、神が人にどれほど近くおられることができるかについて、私たちに何を教えていますか。

問4 ヘブライ 10：19～22 を読んでください。この聖句は私たちを何に招いていますか。

ヘブライ人への手紙は、イエスは天の聖所に入られたことを述べ、そして彼の導きに従うよう私たちに語りかけます。この考えは前に紹介された、イエスは信じる者たちの「指揮官」であり先駆者であるという考えと一致するものです（ヘブ2：10、6：19、20、12：2）。「新しい生きた道」とは、彼の犠牲と昇天によってイエスが開始された新しい契約を指します。「新しい生きた」という表現は、古い契約を表す「年を経て古びた」という表現とは対照的です（同8：13）。私たちが大胆に神に近づくことを可能にするのは、私たちに罪の赦しを与え、私たちの心に律法を置いた新しい契約です。それは、私たち自身の功績によるのではなく、ただイエスが私たちのために契約の義務を果たしてくださったことによるです。

ヘブライ人への手紙は、古い契約の開始には、聖所の建設と祭司たち聖別が含まれていたと指摘しています（ヘブ9：18～21を出40章、レビ8、9章と比較）。契約の目的は、神とその民の間に親密な関係を築くことでした（出19：4～6）。イスラエルがこの関係を受け入れたとき、神は、彼らの間に住むことができるように、彼らにただちに聖所を建てようお命じになりました。聖所が完成し、神の民の間に神が臨在することで、神とイスラエルの間の契約が完成したのです。

新約時代にも同じことが言えます。新しい契約もまた、イエスが人類のために祭司としての務めを開始したことをも意味しています（ヘブ5：1～10、7：1～8：13）。

イエスの神の御前への昇天は、神の民のための新しい時代の開始を宣言するものです。ゼカリヤ3章は、サタンが神の民を代表する大祭司ヨシュアを訴えるために神の御前にいたことを描写しています。この訴える者は、ヨブの神への忠誠について疑問を提起した者と同じです（ヨブ1、2章）。しかしながら、イエスの犠牲によってサタンは天から投げ落とされました（黙12：7～12をヨハ12：31、16：11と比較）。そして今、イエスはその犠牲と忠実さによって私たちをとりなし、私たちのために救いを主張してくださっているのです。

もしサタンが神の前にあなたを訴えることができるならば、あなたに対してどのような告発をするでしょうか。彼はもともと嘘つきですが、あなたを非難するためにどれほどの嘘をつかわかりません。あなたの唯一の希望は何ですか。

問5 ヘブライ 12:22~24 を読んでください。天のエルサレムで神の御前に出るとはどのような感覚なのでしょうか。

この箇所では、信じる者たちが、シオンの山、天のエルサレムで神の御前に「近づいた」と表現されています。彼らのこの経験は未来に起こるものであるのに、すでに起こった出来事として表現されています。従って、天のエルサレムは「望んでいる」ものであり、「見えない」ものでありながら、信仰によって私たちに保証されているのです（ヘブ11:1）。

この箇所の意味するところはこれで終わりではありません。彼らだけでなく私たちもまた、私たちの代表であるイエスを通して、シオンの山に到着したのです（エフェ2:5,6、コロ3:1）。イエスの昇天は信仰の出来事ではなく事実です。この歴史的事実としてのイエスの昇天は、ヘブライ人への手紙の、公に告白している信仰に堅く立つようにとの勧告に説得力を与えます。パウロは言います。「わたしたちには、もろもろの天を通過された偉大な大祭司、神の子イエスが与えられているのですから……、大胆に恵みの座に近づこうではありませんか」（ヘブ4:14、16）。

このように、私たちはすでに私たちの代表者を通して〔天のエルサレムに〕着いているのですから、それにふさわしく行動すべきなのです。イエスを通して私たちは、「天からの賜物を味わい……、神のすばらしい言葉と来るべき世の力とを体験」（ヘブ6:4、5）しているのです。イエスの昇天と天の聖所における奉仕という事実は、「魂にとって頼りになる、安定したいかり錨」（同6:19）です。その約束は実体を伴うものであり、信じるに値するものであることの保証なのです（同7:22）。私たちにとって、信仰は歴史的裏づけのある錨なのです。

神の目的はイエスにおいて成就するだけでなく、私たちの中にも成就します。イエスの昇天は、過越祭と五旬祭というイスラエルの最初の二つの年毎の祭りの成就であることはすでに学びました。ヘブライ人への手紙と黙示録によれば、最後の祭である仮庵祭はまだ成就されていません。私たちはこの祭りをイエスと共に祝うのです。それは私たちが、天の故郷で「神が設計者であり建設者である……都」に入るときに成就します（ヘブ11:10、13~16）。私たちは仮の住まいを建てませんが、神のお建てになる住まいが天から下ってきて、私たちはそこで主と共に永遠に住むことになるのです（黙7:15~17、21:1~4、22:1~5、民6:24~26）。

この痛みと苦しみのある世にあって今、私たちはどうすればこの永遠の命の約束を現実のものにすることができるのでしょうか。

「キリストの昇天は、主に従う者たちが約束の祝福を受けることのできるしるしであった。彼らは、仕事にとりかかる前にこれを待たなければならなかった。キリストは天の門の中に入って行かれて、天使たちのさんびのうちに王座につかれた。この儀式が終わるとすぐ、聖霊は豊かな流れとなって弟子たちの上にくんだり、キリストは永遠の昔から父と共に持っておられた栄光をお受けになった。ペンテコステの聖霊降下は、あがない主の就任式が完了したことを知らせる天からの通報であった。主は、その約束に従って、ご自分が祭司、また王として、天と地の全ての権威を引き継ぎ、神の民の上に立つ油注がれた者となられたしるしとして、弟子たちに天から聖霊を送られたのであった……。

弟子たちはイエスのみ名を、確信をもって語ることができた。それは、イエスが彼らの友であり、兄であられたからではなかっただろうか。キリストとの親しい交わりに導かれて、彼らは主と共に天に備えられた場所に座った。キリストをあかしするとき、弟子たちの思想を包んだのは、すさまじく燃えることばであった」(『希望への光』1370、1373ページ、『患難から栄光へ』上巻32、34、41ページ)。

話し合いのための質問

- ① 詩編記者は「神に、命の神に、わたしの魂は渇く。いつ御前に出て神のみかを仰ぐことができるのか」(詩編 42:3〔口語訳 42:2])と言いました。私たちどのように、同じような神の御前に出る渇きを覚えるでしょうか。もし私たちが今この世で、信仰によって神の御前に出て主を礼拝することを喜ぶことができなければ、来るべき御国で喜ぶことはできるでしょうか。神の御前での喜びへと導くものは何でしょうか。
- ② ある人があるクリスチャンの信仰をからかって、「私があなたに代わって信じてあげましょう」と言ったそうです。これは単なるからかいだったかもしれませんが、私たちも注意する必要があります。イスラエルは同じことを荒野でしたからです。彼らは彼らと神との間に仲介を求めました。私たちは、自分に代わって他人に聖書を研究してもらい、その真理の宝を見つけてもらおうとします。自分で祈るよりも、別の人に祈ってもらった方が神に聞き届けてもらえるのではないかと考える誘惑に陥ることもあります。このような霊的な罠に陥らないためにはどうすれば良いでしょうか。私たちが、他の誰かを必要とせず、イエスによって神に近づくことができるのはなぜでしょうか。
- ③ ヘブライ人への手紙は救いの保証について語っています。しかし私たちは時に、この救いの「保証」を「見込み」に変えてしまっていないでしょうか。

神様が最高の証人

18歳のとき、私は他の人にイエス様を伝えたいと熱望していました。しかし、恐かったのです。「私は恐いです。あなたをどのように伝えたらよいのか分かりません」とよく祈っていました。

私は手術を受ける必要があり、ロシアの首都モスクワから車で約2時間半のトゥーラという町の病院に入院しました。到着したとき、病室にある6床のベッドの内、3床が使われており、患者たちは読書をしたり、テレビを観たりしていました。私の手術は翌日に行われる予定で、「手術の前に何をしようか?」と、私は聖書を開きました。

向こう側のベッドの女性が、すぐに話しかけてきました。「クリスチャンですか?」「はい」「どの教会に行っていますか?」セブンスデー・アドベンチストであることを馬鹿にされるのが嫌だったので、「プロテスタントです」と答えました。多くのロシア人は別の教派に所属しており、アドベンチスト教会はキリスト教の分派とみなされ、しばしば蔑視されるのです。

その女性は満足せず、「どのプロテスタントの教会?」と聞いてきました。どう答えたらよいのでしょうか。「セブンスデー・アドベンチストです」と、私は答えました。すると、女性は笑顔になって、「えっ、セブンスデー・アドベンチスト! 知ってるわ。あの人たちは最高だもの!」と叫び、熱心にアドベンチスト教会のことやトゥーラ郊外にあるザオクスキー・アドベンチスト大学について語りだしたのです。「アドベンチストは良いクリスチャンだわ! 父は何人かすてきな教会員を知っているのよ」

彼女が話しているとき、医者が部屋に入って来ました。彼は彼女を見るなり、驚いたように言いました。「ここで何をしていますのですか? 昨日、退院するように指示しましたよね」。そして30分もしない内に、彼女の夫が迎えに来たのです。

空になったベッドを見て、神様が思いもよらない方法で私の祈りに応えてくださったのだと分かりました。神様は病室で、ご自身をご自分の方法で啓示されたのです。私は何もしていません。神様がすべてしてくださいました。その結果、ほかの患者たちは、私がアドベンチストであり、心からイエス様を愛していることを知るようになったのです。



入院前から私は教会へ行き、イエス様を信じていました。しかし、クリスチャンであるというのはそれ以上のことです。クリスチャンであることには、イエス様について他人に語ることも含まれているのです。もし主を伝えたいと熱望するならば、主がお膳立てをしてくださいます。神様はあなたのために、すべてをしてくださいます。(アンナ・リコーレット)